

病院長からのメッセージ

医学生のみなさんへ

宝塚市立病院は日夜「市民の健康といのちを守る」ため戦っています。兵庫県の北阪神地域の基幹病院として、近隣からの紹介、救急患者を広く受け入れ、急性期医療を実践しています。一般病床436床のうち、集中治療（ICU）4床、高度治療室8床では重症患者に対応します。私自身、集中治療専門医であるせいか、重症患者を診察する際は血が騒ぎます。北阪神地域でトップクラスのスタッフ医師とともに、多くの症例を経験し、充実した研修生活を送れることを保証します。我々の病院の特徴をいくつか列挙します。

1) 一貫した救急医療

2015年夏に救急医療センターを開設し、救急患者をよりスムーズに受け入れるように変革してきました。この5年で救急車受け入れは倍増、年間約5,000例になっています。中等症は救急医療センターで、重症はICUで治療します。

2) 内視鏡検査

消化器内視鏡センターでは年間1万例を超える内視鏡検査・治療を行っており、県内でも有数の施設です。特殊な内視鏡処置、CTとエコー画像をリンクさせる技術など、トップクラスの技術レベルを誇ります。

3) がん治療センター

地域のがん診療をカバーするため、2018年4月のがん治療センターを開設しました。患者さんががんと診断された時から、市民生活を支えつつ、放射線療法、手術、化学療法を組み合わせ、専門的ながん診療を提供します。

4) 国内有数の緩和医療チーム

最終的に進行がんと共に生きることになった患者さんに対しては、先進的な緩和ケア病棟にて、疼痛、不眠や不安など様々な症状を和らげ日常生活を快適に過ごすお手伝いをしています。

当院は初期研修の2年間、毎週水曜日の朝に救急症例を中心とした定期的なカンファレンスを開催しています。各指導医からは、プライマリ・ケアや救急の場面にて必要な基礎知識や技術を伝えており、明日からの診療にすぐに役に立つような指導をしています。また、夕方に行っているセミナーは、基礎的な診療ができるようになること、専門診療科以外の疾患も初期治療には対応できることを目標にしています。

ぜひご自分の目で確認してください。見学は大歓迎ですので、お越しください。

病院長 今中 秀光

研修医の声

研修1年目を終えて

研修医1年目 研修医A

研修医生活前半の1年間があっという間に過ぎてしまいました。前半の半年は内科を中心に、後半は救急、麻酔を回りつつ、選択制で希望である外科系で研修させていただきました。また、週1回の研修医のカンファレンスでは救急に絞った講義や症例発表も経験させ

ていただきました。当直においても自分の意欲に応じていろいろなことに挑戦でき、それを温かく見守り熱心に指導してくださる指導医の先生方が常に付いてくださるので多くのことを勉強できたと思います。

当院の研修では1年目から選択制があります。かなり自由に研修日程を組ませていただいたおかげで将来の自分の進むべき道を意識して研修できると思います。

さらには学会発表も経験させていただき、準備や大人数を目の前にして発表で多くのことを感じる事ができてよかったと思っています。感謝しています。2年目はさらに自分の将来を思い描きながら継続して高い意欲をもって研修に臨めることを楽しみにしています。

研修を終えて感じた当院のポイント

研修医1年目 研修医B

僕は前期研修では手技を多く学びたいと思い、住み慣れた大学の近くにある中規模の病院で学生間でも評判の良かった当院を研修先として選びました。

この1年間で僕が気付いた当院のオススメポイントは、

① 大学病院勤務の同期と比べ圧倒的に手技を行える機会が多い

研修医の定員が7人のため選択科が被ることや手技を奪い合うこともなく、また上級医の先生方も優しく熱心に指導してくださるのでいろいろな手技を数多く学ぶことができます。救急は2次救急指定病院として多種多様な患者を診ることができ、上級医の指導の下、診療や治療方法を実際に自分で行うことができます。各科においても自分のやる気次第で色々な手技をやらせてもらえ、ほかの病院に勤めている同期からは羨ましがられています。

② 職場の雰囲気が良い

僕が研修先として選んだ理由の一つでもあります。研修医の仲が良く、上級医の先生やコメディカルも気さくで優しい方が多いため職場の雰囲気はほかの施設と比べても良い方だと思います。月1回ペースで研修会飲み会をしており、また後期レジデントや5年目以降の先生方も参加してくださるのでプライベートはもちろん仕事でもコンサルトしやすい環境でとても働きやすいです。

③ 労働環境

当院は市立病院であり労働時間の基本は午前8時半～午後5時です。もちろん時間通りに終われる毎日ではありませんが、検査やオペなどは時間内に終われるよう組まれており、研修医は医療に専念して働ける環境づくりもできていますので、雑用に追われ勉強ができずぐったりな毎日を送るといったようなことはほとんどありません。研修医の時はとにかく働き・寝る間を惜しんで勉強するのが当たり前だと思われる方もいると思いますが、僕は決められた時間内に仕事を終わらせ、後はプライベートを充実するなり、仕事で気になったことを本を読んだり勉強する時間に使い、無理なく効率的に働き・学び、楽しく仕事を続けていくことが大切と考えています。そういった職場環境を望まれている方に当院は最適と思われると思います。

以上3点を挙げましたが、実際に職場の雰囲気やスタッフの働きぶりを是非見学に来てください。研修医一同お待ちしております。

研修の特徴

プライマリケア ～手技が多く学べます～

「日常診療で遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につける」という研修理念に則し、当院はプライマリ・ケアの卒後研修を実践しています。

医師は専門性を高めて自分の専門分野を極めるとともに、常にプライマリ・ケアのできる知識と技術を習得しておくことが必要です。救急科、麻酔科、集中治療室（ICU）における研修を通じて、プライマリ・ケアに必要なバイタルサインの把握や病態の診断、静脈路確保、気道確保、気管挿管、人工呼吸などについての知識や技術を習得します。

更に、二次救命処置を実施できるように指導します。

初期臨床研修医のプライマリ・ケア能力を一層高めるために、毎週水曜日に各診療科医師によるプライマリ・ケア講義を行い、各診療科の救急疾患の診かたなど実践的講義や報道訓練などの実技指導を行っています。

救急医療 ～多くの症例を経験できます～

初期研修医は1年目の研修期間に救急科、麻酔科、集中治療室（ICU）の研修を選択します。上位医師の指導の下に、研修医は救急患者の初期治療にあたり症候に応じた検査、診断、治療を実践的に行う能力を身につけます。

当院の救急外来の受診患者数は年間約10,000名、救急車台数は約5,000台に達しています。昼の勤務時間帯は、救急科が宝塚市立病院の救急医療を担っています。救急科には、内科系と外科系の医師が所属していて研修医の指導を行います。

毎週水曜日朝に喧々した症例をテーマに研修医合同の救急症例カンファレンスを開催し一層の理解を深めます。

カンファレンス ～現役スタッフのホットな指導が魅力です～

初期研修の2年間は、毎週水曜日の朝の救急症例を中心にカンファレンスを開催しています。研修医が順に症例の提示を行い、その後に活発な討論をしています。症例提示することにより、知識が深まり、同時にプレゼンテーションの能力も育まれます。

各指導医からは、プライマリ・ケアや救急の場面にて、必要な基礎的な知識や技術を伝え、明日からの診療にすぐに役立つような指導をしています。さらに、感染、蘇生、脳卒中、安全管理、そして各科のセミナーを夕方に施行しています。

現役のスタッフよりホットな指導を受けることも可能で、学会発表の機会も設けています。これらに参加することにより、ローテーションしなかった診療科についての知見を得ることで、専門医療に特化しないプライマリ・ケアや救急にすぐに役立つ基礎的な知識を身につけられます。